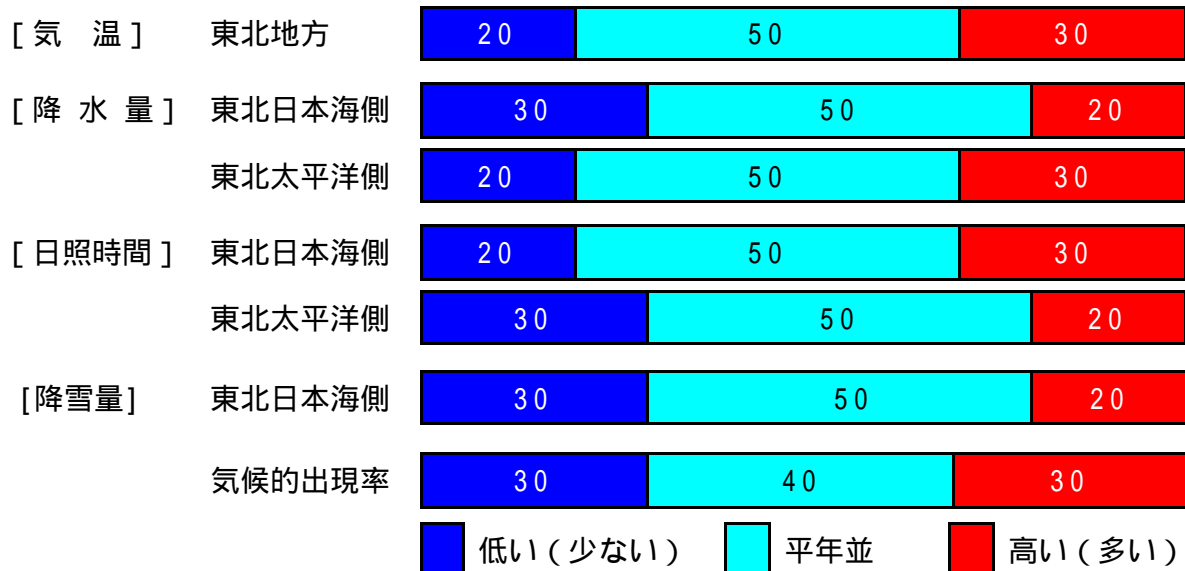


東北地方 1 か月予報の解説 (予報期間: 11 月 20 日 ~ 12 月 19 日)

平成 11 年 11 月 19 日 仙台管区气象台

1. 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)



- [気 温]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「高い」で、その確率は 30% です。「低い」の確率は 20% と小さい。
- [降 水 量]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「少ない」で、その確率は 30% です。「多い」の確率は 20% と小さい。
 東北太平洋側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「多い」で、その確率は 30% です。「少ない」の確率は 20% と小さい。
- [日照時間]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「多い」で、その確率は 30% です。「少ない」の確率は 20% と小さい。
 東北太平洋側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「少ない」で、その確率は 30% です。「多い」の確率は 20% と小さい。
- [降雪量]: 東北日本海側は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50% です。次に大きい確率は「少ない」で 30% です。「多い」の確率は 20% と小さい。

2. 予想される天候の特徴

(もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。)

向こう 1 か月

東北地方は、低気圧や高気圧が交互に通リ、天気は周期的に変化するでしょう。低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置になるが長続きしないでしょう。東北日本海側は平年同様曇りや雨または雪の日が多いでしょう。東北太平洋側は平年同様晴れの日が多いでしょう。

この期間の平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約 8 日、東北太平洋側で約 19 日です。

各予報期間の天候の特徴

1 週目…………… 期間の初めに気圧の谷が通過し、日本海を中心に天気が崩れる見込みです。その他の日は移動性の高気圧に覆われて、晴れる日が多いでしょう。

なお、詳細は週間天気予報を参照して下さい。

平均気温は高い見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約2日、東北太平洋側で約4日です。

2 週目……………

(11 月 27 日～12 月 3 日)

低気圧と高気圧が交互に通リ、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北日本海側は平年同様曇りや雨または雪の日が多いでしょう。東北太平洋側は平年同様晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約2日、東北太平洋側で約4日です。

3～4 週目……………

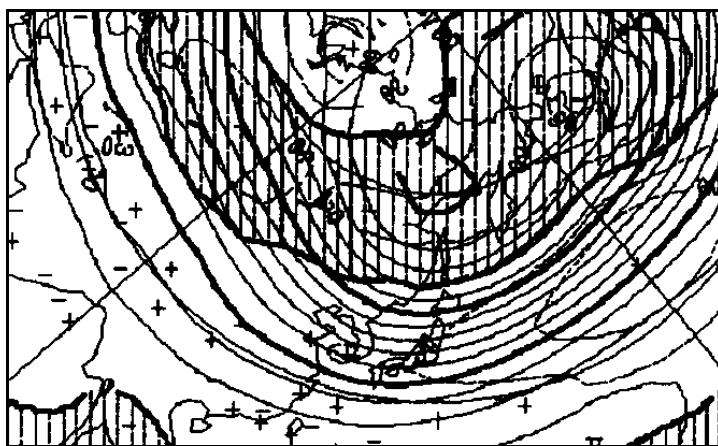
(12 月 4 日～12 月 17 日)

低気圧と高気圧が交互に通リ、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるが長続きしないでしょう。東北日本海側は曇りや雨または雪の日が多いでしょう。東北太平洋側は平年同様晴れの日が多いでしょう。

平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約3日、東北太平洋側で約9日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）

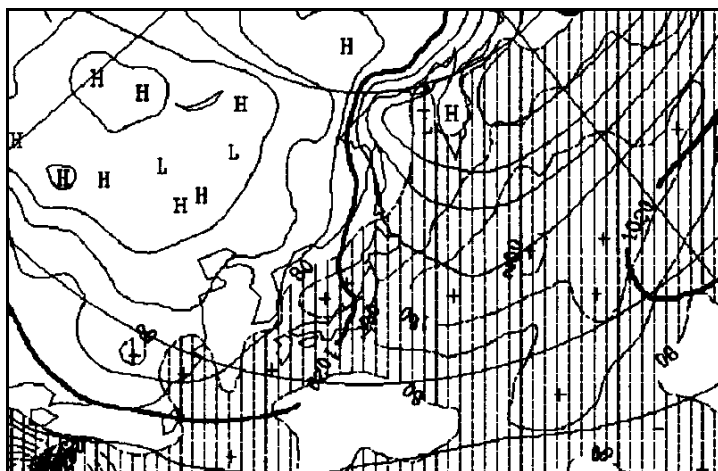


月平均の 500hPa 高度・偏差
(等高度：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差)

・500hPa 高度・偏差

月平均でみると、日本付近の流れはゾーナル^{注1}傾向で、日本付近を含む中緯度帯は弱い正偏差に覆われている。このため低気圧や高気圧が交互に通リ天気は周期変化し、冬型の気圧配置は長続きしない見込み。2 週目（図略）は北の負偏差域が東北地方まで南下するが、3 週目以降（図略）は再び広く正偏差に覆われる。

注1) ゾーナル：偏西風の南北の蛇行が小さい状態。低気圧や高気圧が順調に進み、天気は周期的に変化しやすい。



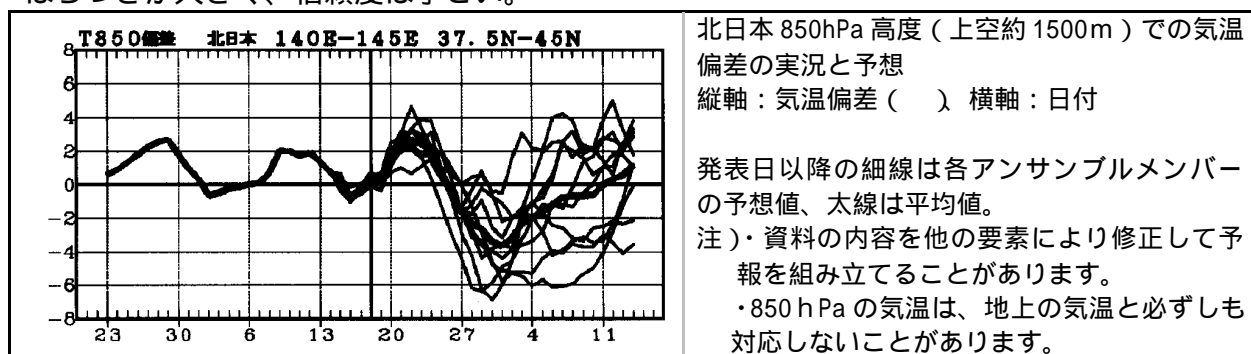
月平均の地上気圧と降水量
(等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上)

・地上気圧と降水量

月平均でみると、降水域は日本の東海上からと、日本海に見られ、冬型の気圧配置の時の降水分布になっている。気圧配置は2 週目（図略）を中心に弱いながら冬型の気圧配置が予想され、低気圧の通過後、一時冬型の気圧配置になることを示している。

3. 北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンブルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温は、アンサンブルメンバーの平均でみると、1 週目は平年を上回り、2 週目に平年を下回り、3 週目以降はほぼ平年並で推移する予想。2 週目以降は各メンバーのばらつきが大きく、信頼度は小さい。

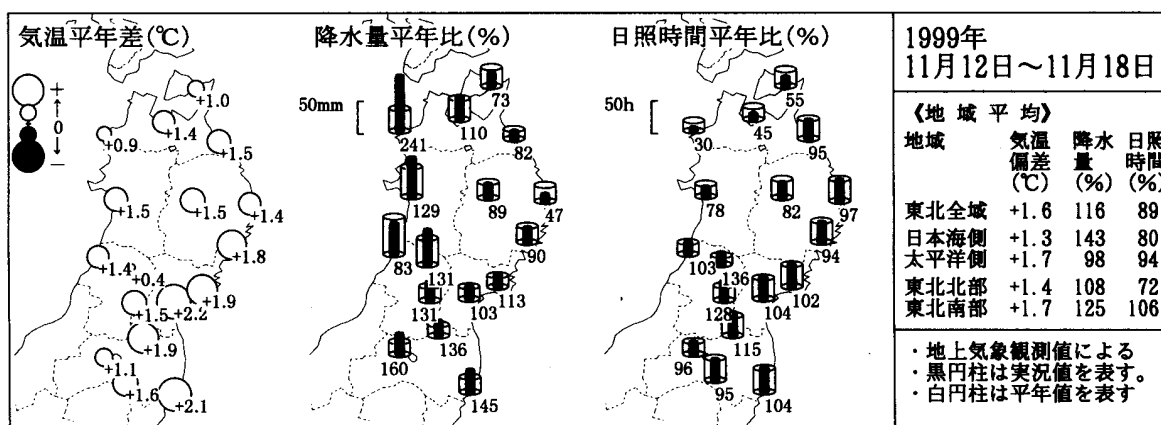


注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンブル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンブルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近 1 週間（11 月 12 日～11 月 18 日）の天候の経過

この期間、天気は周期的に変化した。12 日は気圧の谷の通過により全般に雨となり、その後一時冬型の気圧配置となった。14 日は移動性の高気圧に覆われ全般に晴れ、15 日は日本海の低気圧と日本の南岸を通る低気圧の影響で雨となり、通過後は冬型の気圧配置となった。このため 16～17 日に日本海側から太平洋側北部の各地で初雪を観測した。その後北部を低気圧が通過した後、移動性の高気圧に覆われ、おおむね晴れた。

平均気温は東北地方で +1.6℃ と平年を上回った。降水量は東北日本海側で平年比 143% と平年を上回り、太平洋側で 98% とほぼ平年並だった。日照時間は東北北部で 72% と平年を下回り、東北南部で 106% とほぼ平年並だった。



最近 1 週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差（比）